

令和7年度 特別史跡安土城跡調査整備事業 天主台周辺地区発掘調査【中間報告】

調査期間 令和7年7月末～令和7年12月（予定）

調査主体 滋賀県（文化スポーツ部 文化財保護課 安土城・城郭調査係）

調査箇所 特別史跡安土城跡天主台周辺地区 伝本丸取付台東半（東近江市南須田）

調査目的 天主台周辺地区の環境整備に関わる資料を得るための発掘調査

調査面積 594㎡（伝本丸取付台東半部（V区））

調査概要

1 調査区の現況

調査区である伝本丸取付台東半部の規模は、長軸方向が約43m、短軸方向が約17mです。

調査前は見学者の立ち入り制限を設けない公開エリアでした。伝本丸跡と天主跡とをつなぐ見学者動線には腐植土が堆積しておらず、雨に洗われ、踏圧もあって周囲よりもやや低くなって樹根や礎石が露出しています。

2 見つかった遺構

立ち木は残していますので全面掘削はしていませんが、これまでに、昨年度の伝本丸取付台北半で発見した建物とは別の建物礎石とそれを仕切る石列が見つかっています。また、昭和の石垣修理の影響範囲も確認しています。

《建物礎石》

調査区の中央部分から東側では建物の礎石が見つかっています。今回確認した礎石は、昨年度の調査で確認した礎石のように1mを超える大型のものは無く、現在のところ80cm程度のものばかりです。

《石列》

昨年度の調査では、礎石建物を区画する石列が見つかっていました。今回の調査ではこれにつながる石列が見つかっています。石列は途中で南に向きを変えますが、最終的にどこにつながるかはまだわかりません。

石列の石材は、平坦な面を天主石段側に向けて直線的に揃えて並べています。

《石垣修理の影響範囲と遺構検出面》

調査区の周囲の石垣は昭和40年代に修理工事を行っています。今回の調査では、その影響範囲をこれまでに確認しています。

石列や遺構検出面は北東に傾斜しています。これは、雨水を伝本丸跡に流れないように対策したものと考えられます。なお、伝本丸跡の発掘調査では、伝本丸取付台側に石組み溝が見つかり、取付台からの雨水対策が講じられています。

3 出土遺物

表土層である腐植土層からは、昭和の見学者に由来する空き缶・空き瓶等とともに瓦片が出土しています。

遺構精査中には、瓦片の他に瀬戸天目茶碗の口縁片、土師皿の口縁片、白磁片がこれまでに出土しています。

4 今後の調査方針

石列や礎石・抜き取り痕の有無を精査し、見学者通路を付け替えて通路部分を調査します。下記に留意して今後の整備に必要な情報が得られるよう調査を進めます。

- ①建物礎石は、礎石の抜き取り跡の有無を精査します。石段や石垣、石列との位置関係を考慮し、建物規模等を推定する手がかりを得る予定です。
- ②今回の調査で見つかった石列は、昨年度調査で見つかった石列とつながりました。天主石段の前を囲むように面を揃えて石列が配置されていたことが確認できました。今後の調査により、石列の全体像が明らかにする予定です。



北側からみた調査区



調査区西側の石列



調査区東側の建物礎石



天主石段からみた調査区南西側